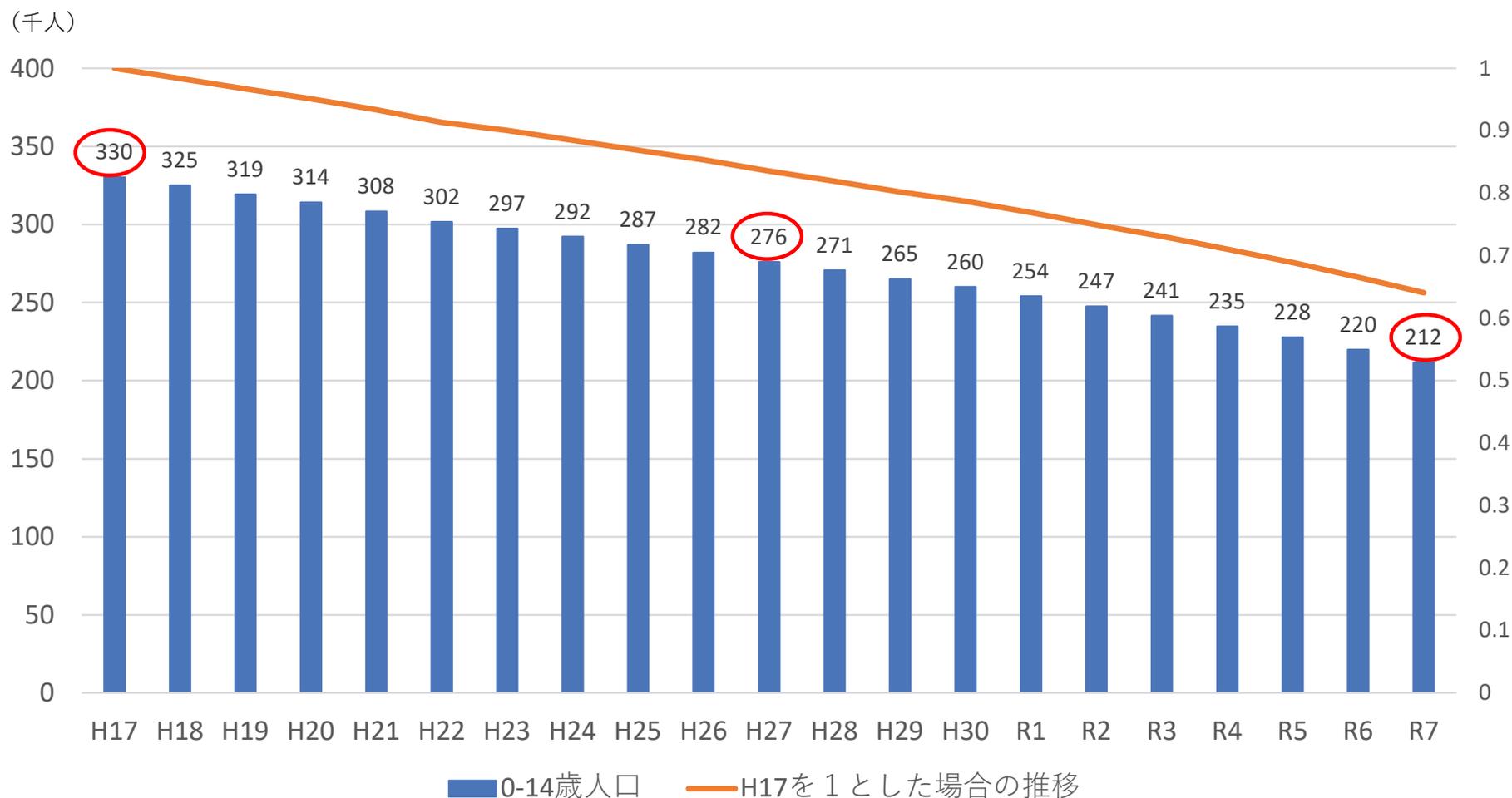


本県の小児医療の現状について

小児人口の推移（新潟県）

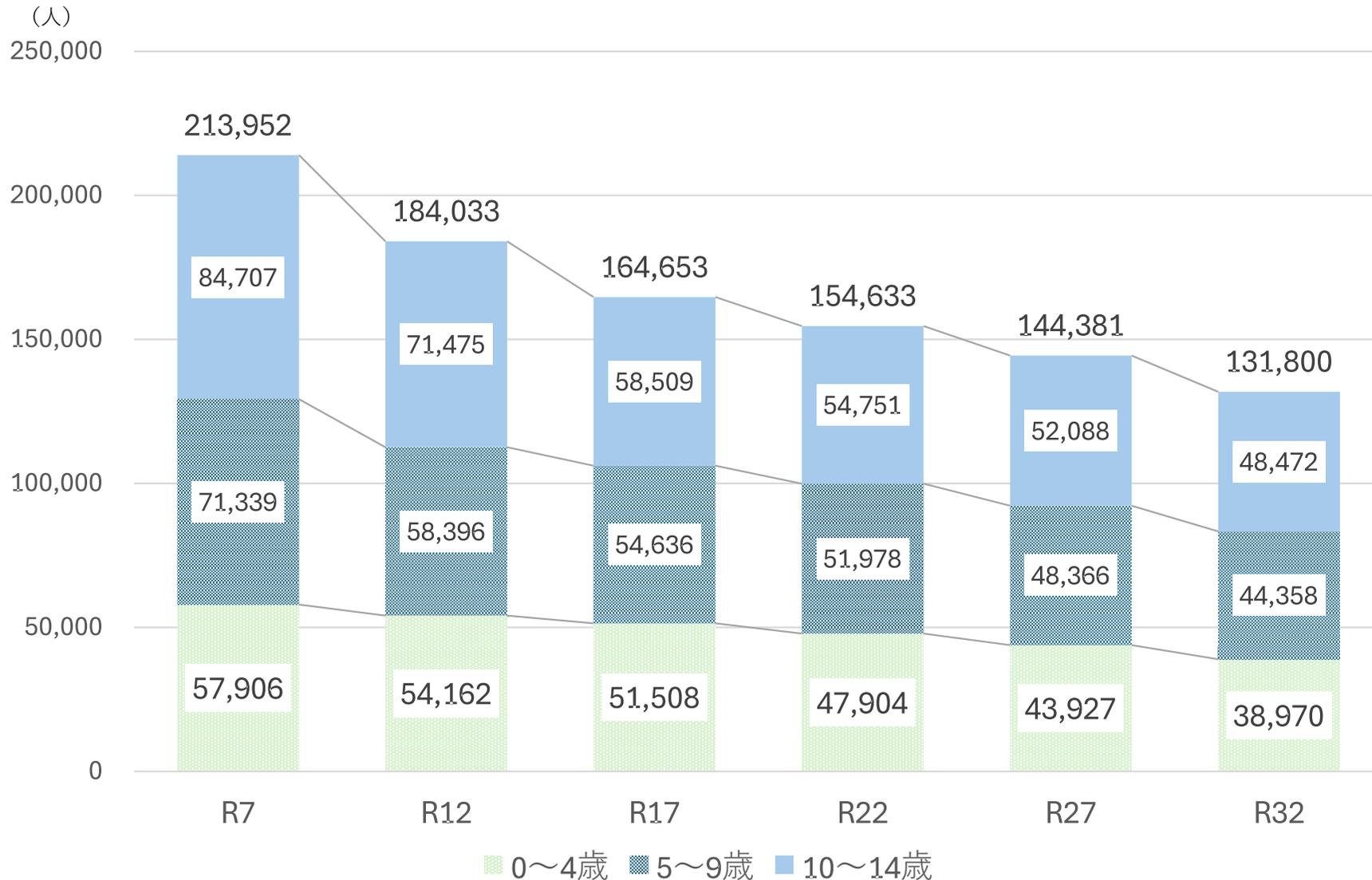
○ 県内の小児人口は減少し続けており、令和7年は10年前（H27）と比べ▲64千人（▲23.2%）、20年前（H17）と比べ▲118千人（▲35.8%）となっている。



※新潟県人口移動調査

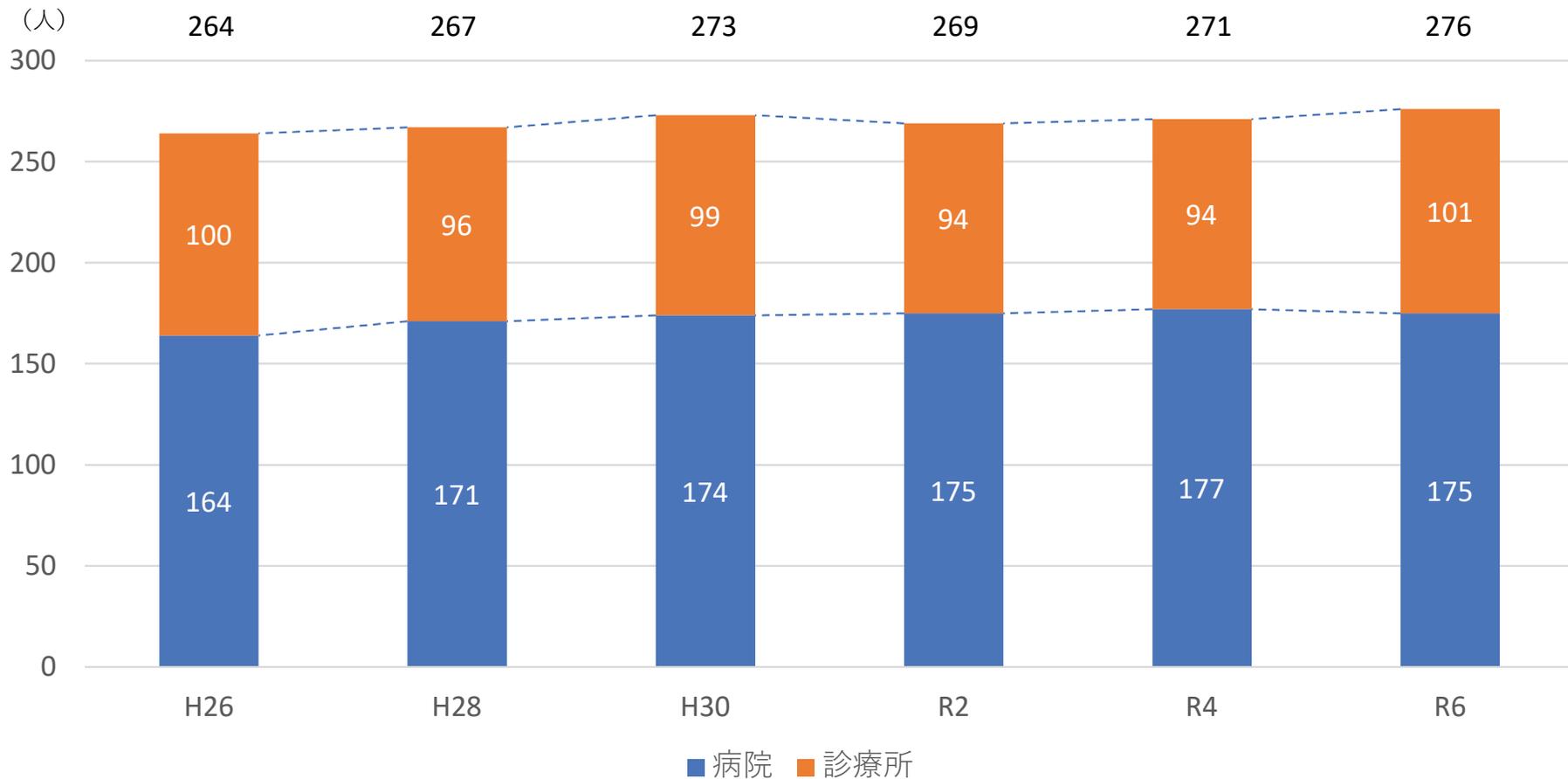
小児人口の将来推計（新潟県）

○ 今後も県内の小児人口は減少し、R7からR32にかけて▲82千人（▲38.4%）となる見込み。



小児科医師数の推移（病院・診療所別）

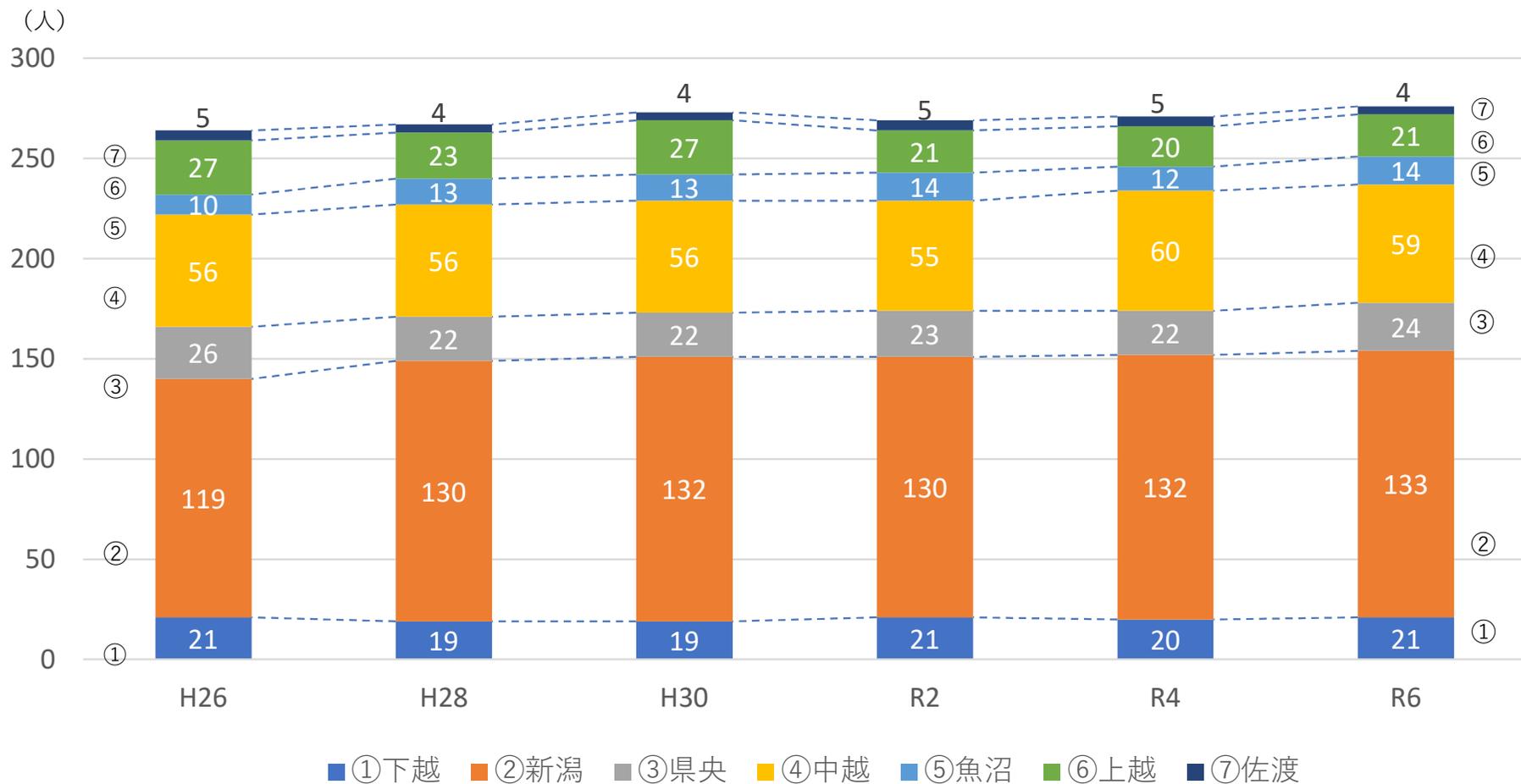
- 県内の小児科医師数は、10年前と比べて増加している。
- 特に、病院に勤務する医師が増加（+11人（+6.7%））している。



※医師・歯科医師・薬剤師統計
※主たる診療科が小児科の医師

小児科医師数の推移（二次医療圏別）

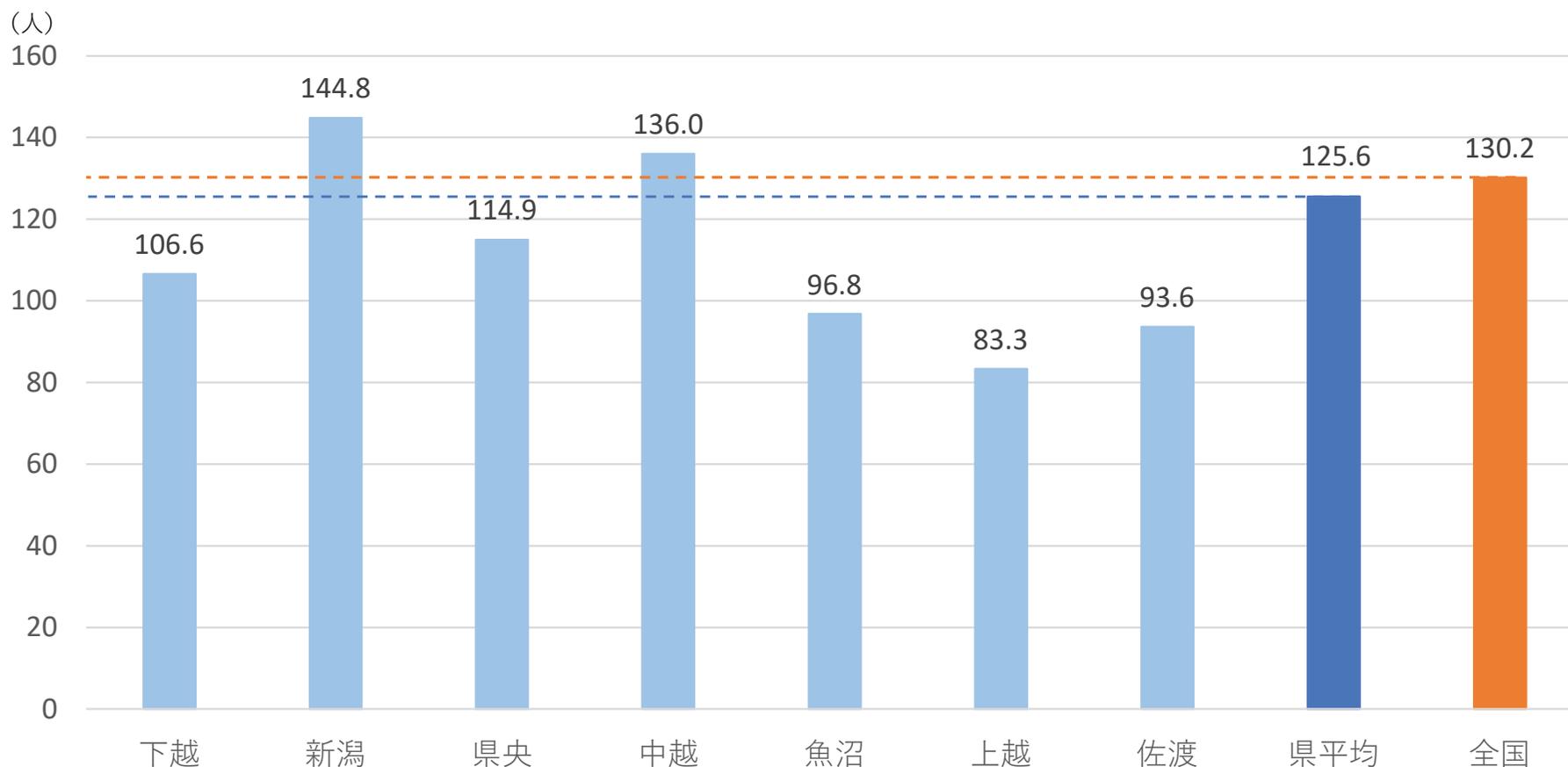
- 各医療圏の小児科医師数は、10年前と比べて、新潟・中越・魚沼で増加、県央・上越が減少、下越・佐渡が概ね横ばいとなっている。
- 県内の小児科医の約半数が新潟医療圏に集中している。



※医師・歯科医師・薬剤師統計
 ※主たる診療科が小児科の医師

小児科医師数（二次医療圏別—小児人口10万対）

○ 新潟及び中越医療圏は全国平均を上回っているが、それ以外の医療圏は、全国平均及び県平均を下回っている。



※R6医師・歯科医師・薬剤師統計、R6新潟県人口移動調査
※主たる診療科が小児科の医師

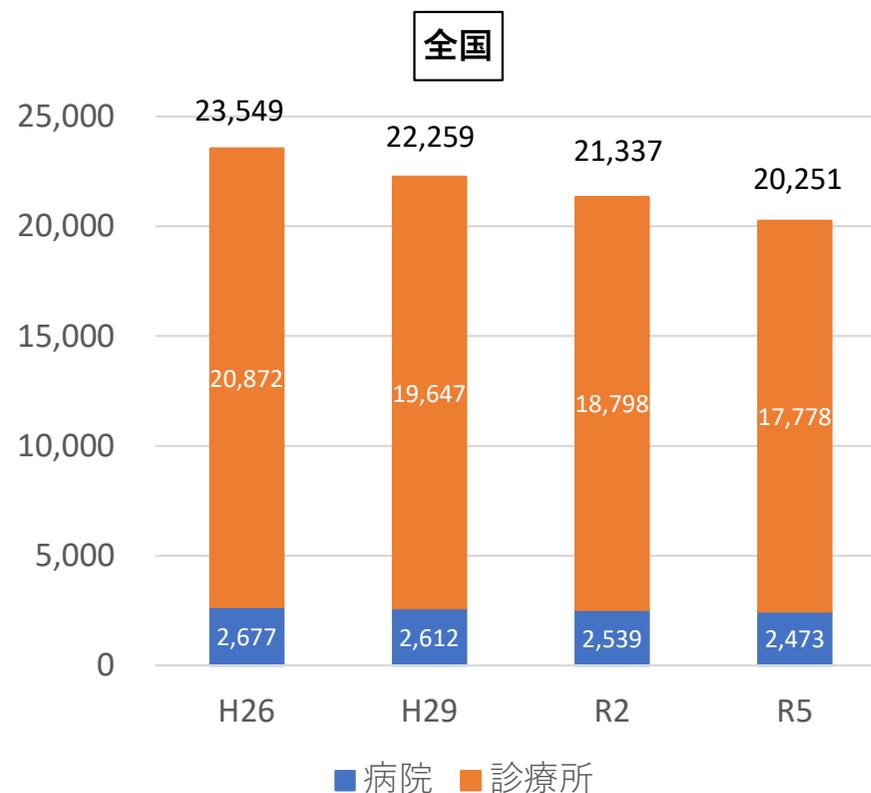
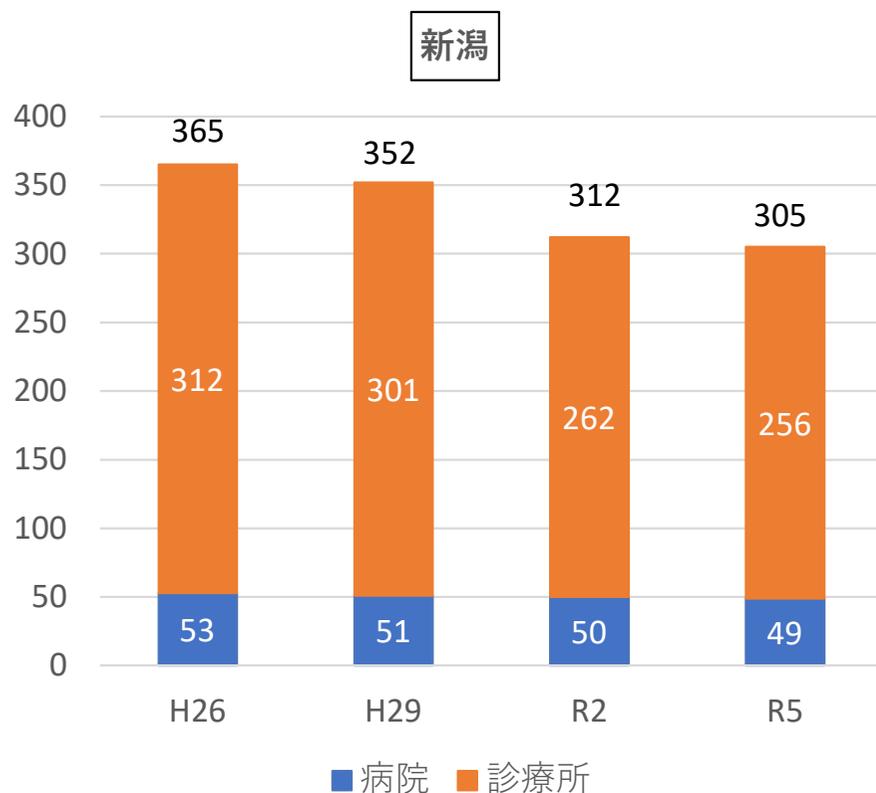
医療施設数の推移

○ 新潟県、全国ともに小児科を標榜する医療施設数は減少しており、特に診療所の施設数が減少している。

【9年間で減少した診療所数】

新潟：▲56施設（▲17.9%）

全国：▲3,094施設（▲14.8%）



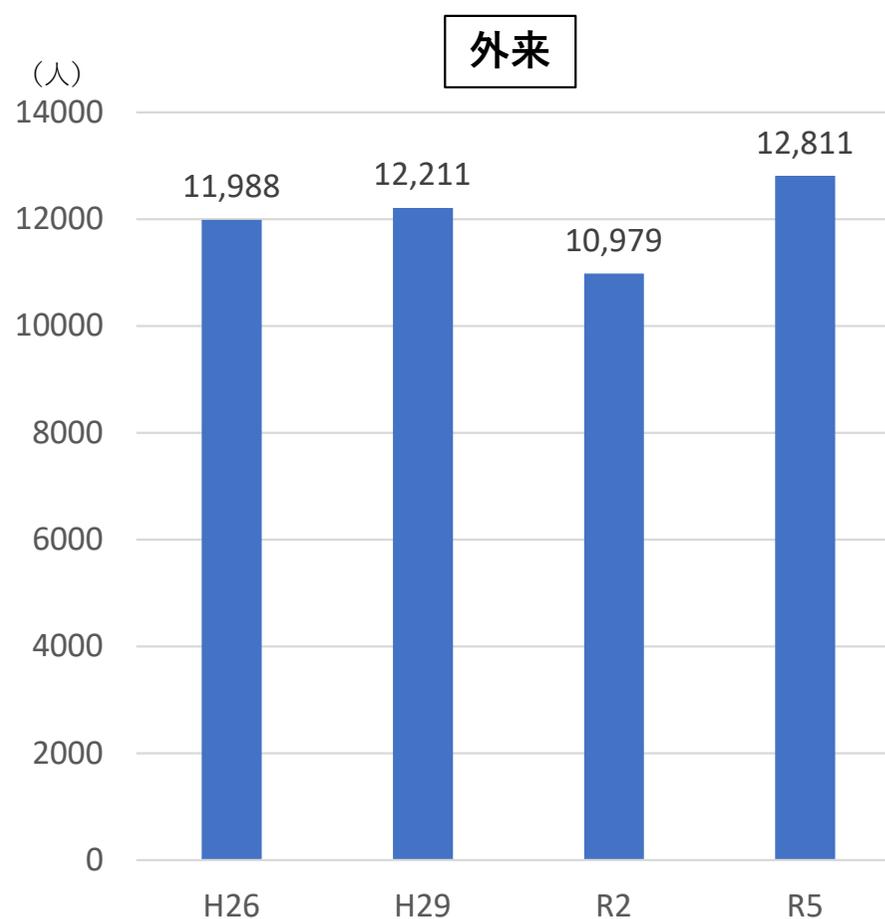
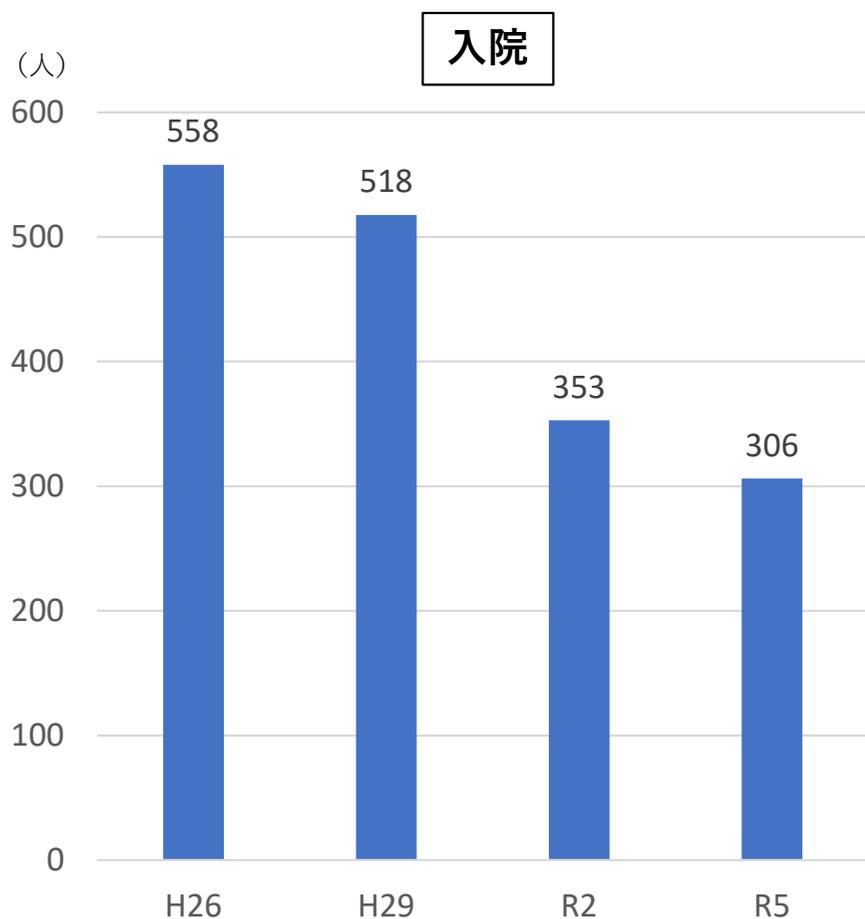
※医療施設調査

※小児科を標榜する医療施設

※H23は福島県の数値がないため全国はH26以降のみ

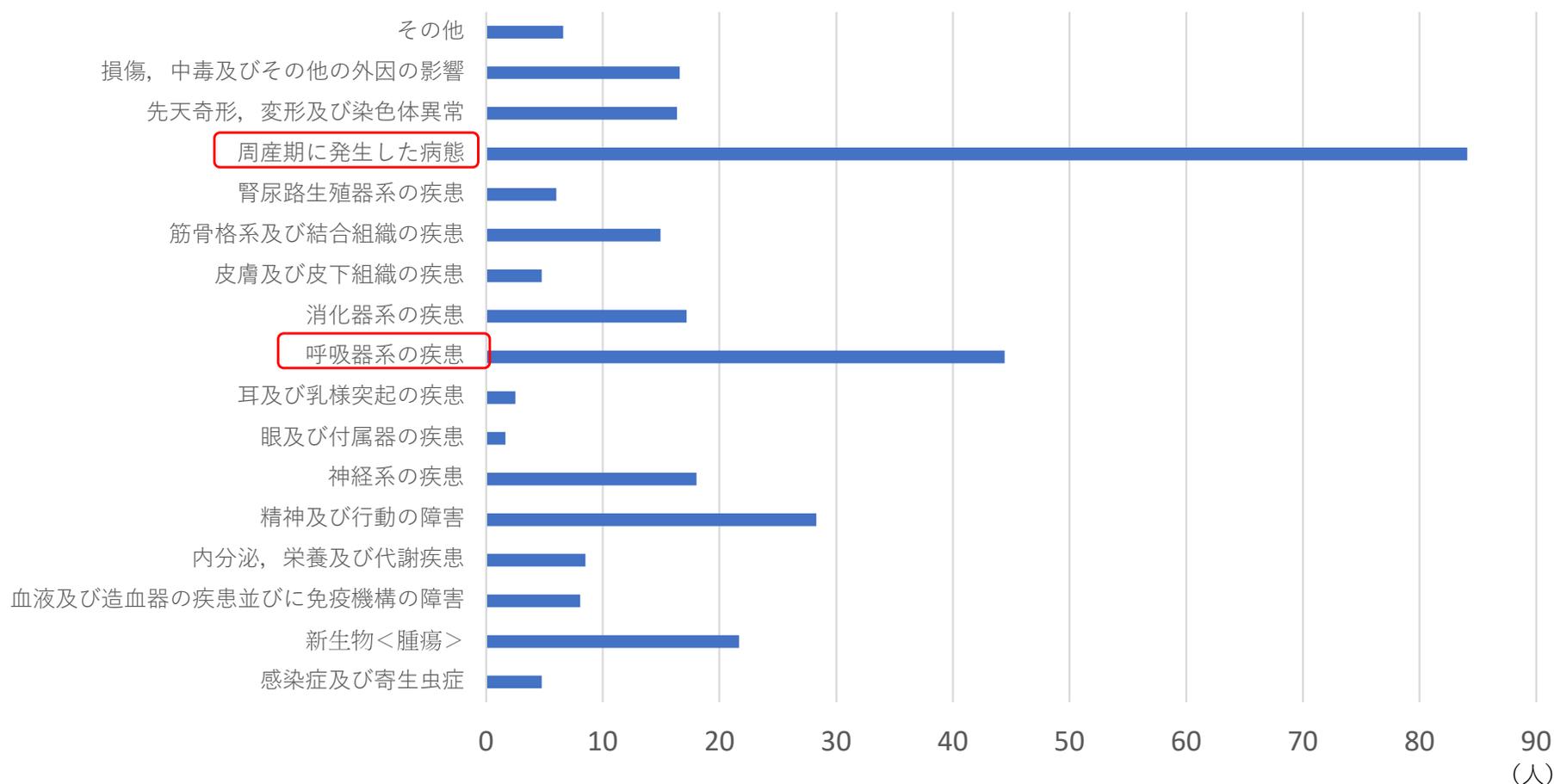
小児推計患者数（1日当たり）の推移

- 県内における小児の入院患者数（推計）は、大きく減少している。
（H26：558人/日 → R5：306人/日）
- 一方で、小児の外来患者数（推計）は、小児人口が減少する中でも微増となっている。
（H26：11,988人/日 → R5：12,811人/日）



小児推計患者数（入院－傷病大分類別）

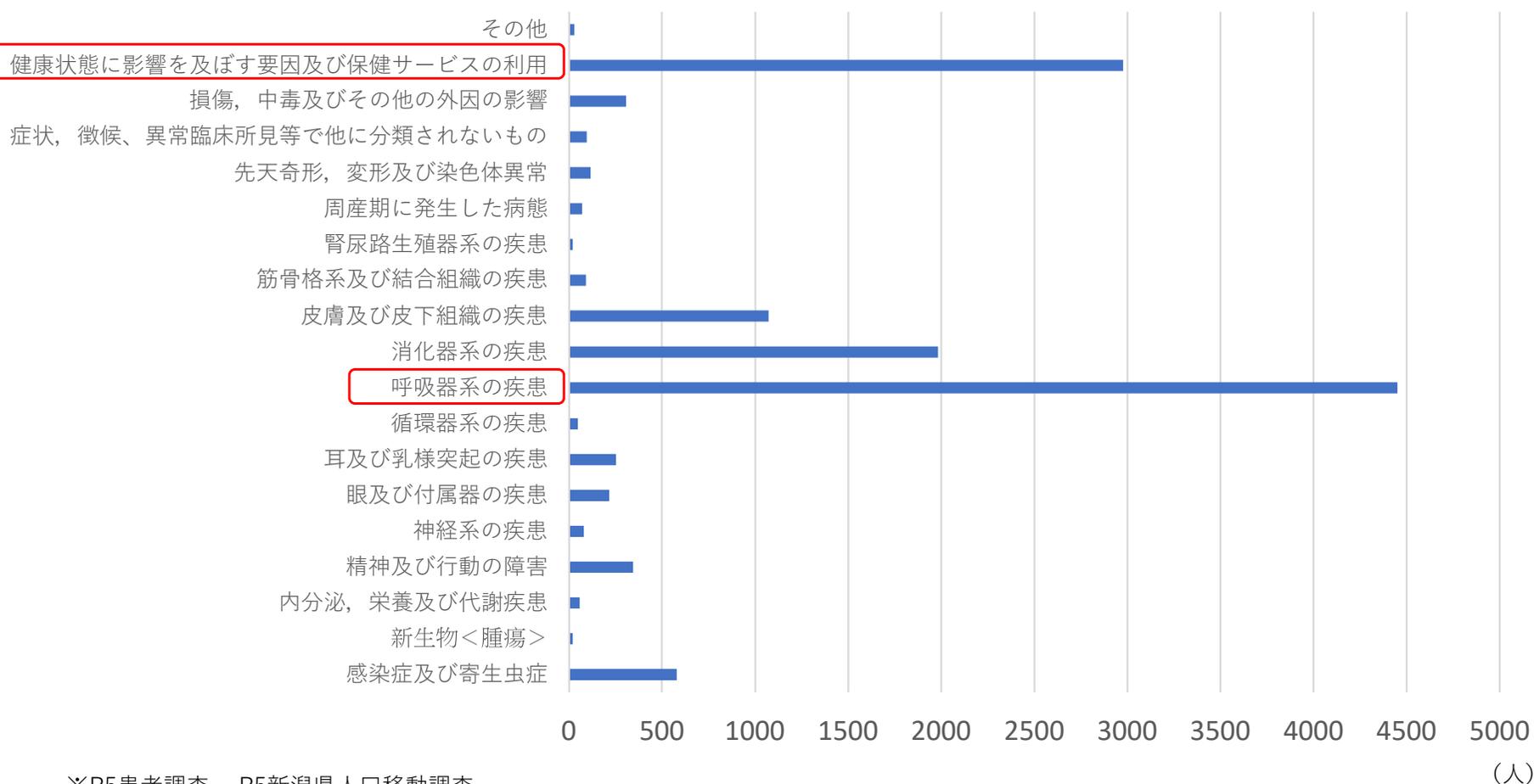
○ 本県では、「周産期に発生した病態」による入院が最も多く、次いで「呼吸器系の疾患」（主に喘息）が多くなっている。



※R5患者調査、R5新潟県人口移動調査

小児推計患者数（外来－傷病大分類別）

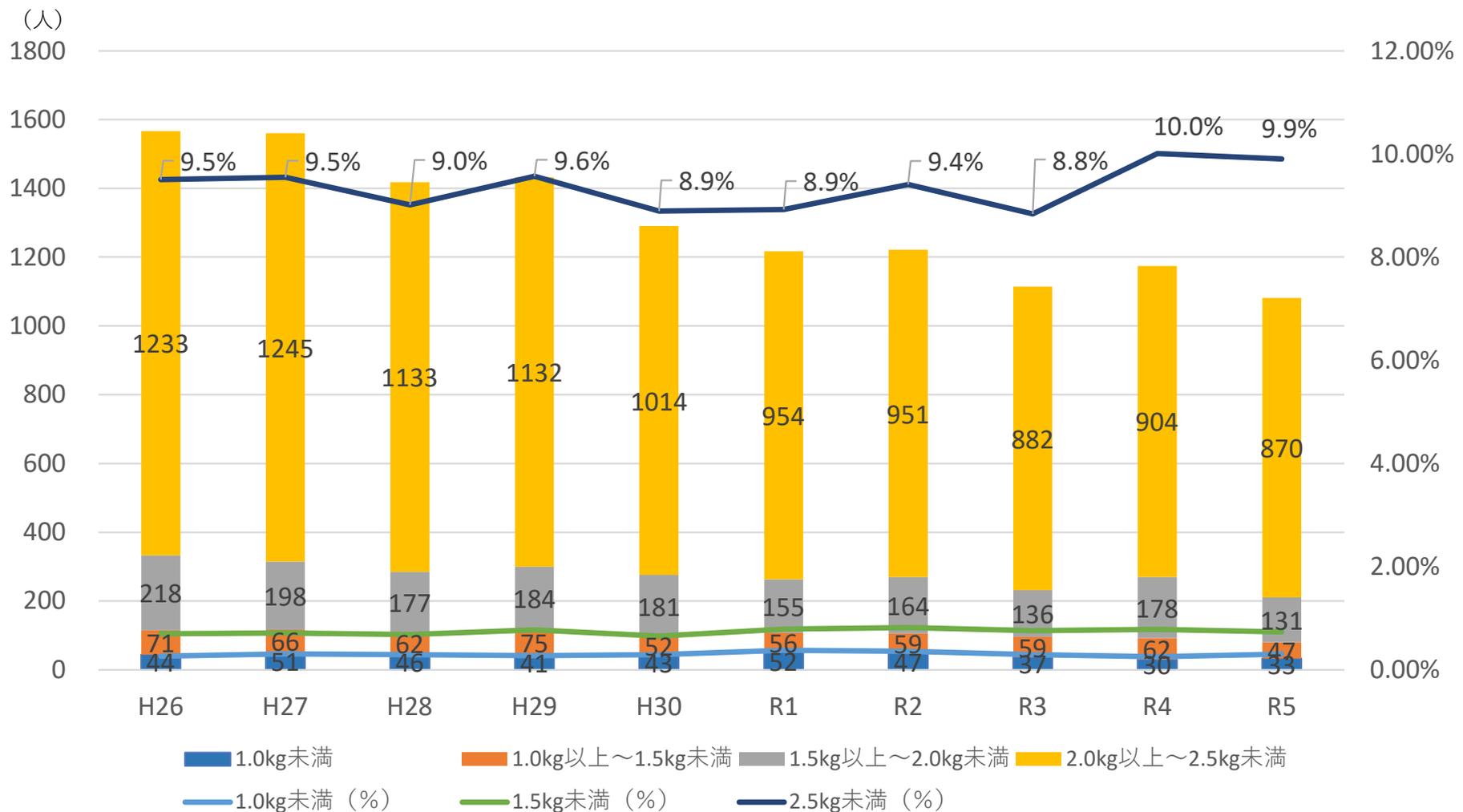
○ 本県では、急性上気道感染症等をはじめとする呼吸器系の疾患が最も多く、検査、健診、予防接種等を含む「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」が次いで多い。



※R5患者調査、R5新潟県人口移動調査

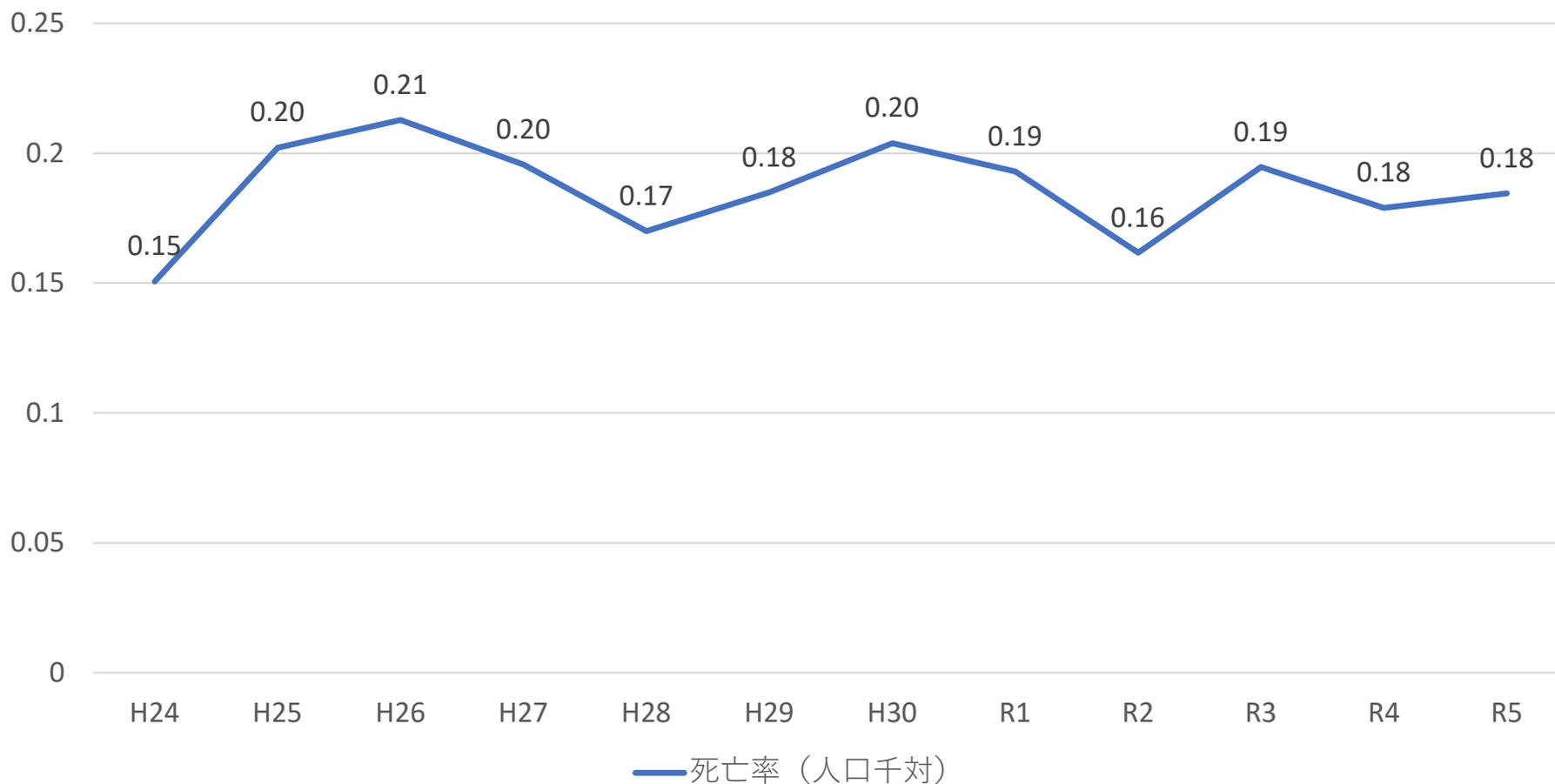
体重別出生数の推移（低出生体重児）

○ 本県においては、少子化により低出生体重児の出生数も減少しているが、低出生体重児の割合は近年微増している。（H26：9.5% → R5：9.9%）



小児死亡率の推移（新潟県）

○ 県内の小児死亡率（小児人口千対）は、0.2人前後で推移している。



※人口動態統計、新潟県人口移動調査

小児の死因

○ 本県においては、令和3年から令和5年まで、小児の死因に大きな変化はない。

【令和3年】

0歳				1～4歳				5～9歳				10～14歳			
順位	死因	死亡数	死亡率	順位	死因	死亡数	死亡率	順位	死因	死亡数	死亡率	順位	死因	死亡数	死亡率
1位	先天奇形、変形及び染色体異常	9	70.2	1位	先天奇形、変形及び染色体異常	3	5.4	1位	悪性新生物<腫瘍>	2	2.4	1位	悪性新生物<腫瘍>	2	2.2
2位	周産期に発生した病態	6	46.8	2位	悪性新生物<腫瘍>	2	3.6	2位	その他の新生物<腫瘍>	1	1.2	1位	心疾患（高血圧性を除く）	2	2.2
3位	心疾患（高血圧性を除く）	1	7.8	3位	周産期に発生した病態	1	1.8	2位	糸球体疾患・腎尿管間質性疾患	1	1.2	1位	自殺	2	2.2
3位	その他の新生物<腫瘍>	1	7.8	3位	不慮の事故	1	1.8					2位	その他の新生物<腫瘍>	1	1.1
				3位	皮膚・皮下組織の疾患	1	1.8					2位	先天奇形、変形及び染色体異常	1	1.1
				3位	他殺	1	1.8					2位	不慮の事故	1	1.1

【令和4年】

0歳				1～4歳				5～9歳				10～14歳			
順位	死因	死亡数	死亡率	順位	死因	死亡数	死亡率	順位	死因	死亡数	死亡率	順位	死因	死亡数	死亡率
1位	先天奇形、変形及び染色体異常	10	83.4	1位	先天奇形、変形及び染色体異常	4	7.5	1位	悪性新生物<腫瘍>	3	3.7	1位	悪性新生物<腫瘍>	2	2.2
2位	周産期に発生した病態	9	75.0	2位	不慮の事故	2	3.8					2位	不慮の事故	1	1.1
3位	乳幼児突然死症候群	3	25.0	3位	悪性新生物<腫瘍>	1	1.9					2位	周産期に発生した病態	1	1.1
4位	敗血症	1	8.3									2位	急性気管支炎	1	1.1
4位	不慮の事故	1	8.3									2位	自殺	1	1.1

【令和5年】

0歳				1～4歳				5～9歳				10～14歳			
順位	死因	死亡数	死亡率	順位	死因	死亡数	死亡率	順位	死因	死亡数	死亡率	順位	死因	死亡数	死亡率
1	先天奇形、変形及び染色体異常	8	71.3	1	不慮の事故	1	2.0	1	先天奇形、変形及び染色体異常	1	1.3	1	悪性新生物<腫瘍>	2	2.3
2	周産期に発生した病態	3	26.8	1	悪性新生物<腫瘍>	1	2.0	1	不慮の事故	1	1.3	2	不慮の事故	1	1.1
3	不慮の事故	1	8.9					1	心疾患（高血圧性を除く）	1	1.3	2	その他の新生物<腫瘍>	1	1.1
3	乳幼児突然死症候群	1	8.9					1	脳血管疾患	1	1.3	2	自殺	1	1.1
								1	インフルエンザ	1	1.3				

※新潟県福祉保健年報（死亡率は人口10万対の数値）

